

<第13号>

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部・
農学研究科
国際交流委員会
No.13 March 2013

みどり 緑のかけはし

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



ひがし にほんだいしんさい ふっこう 「東日本大震災からの復興」



こくさいこうりゅういんかい いんちよう お さだ まこと
国際交流委員会委員長 尾 定 誠

国際交流委員会の委員長をしている尾定です。資源生物科学専攻の水圏動物生理学分野に所属しています。農学部では国際学士コースの Applied Marine Biology (AMB) の運営と、文部科学省の調査研究プログラム「東北マリンサイエンス拠点形成事業」(TEAMS; Tohoku Ecosystem-Marine Science) に参加しています。これらのプログラムを詳しく知りたい人は、AMB の URL (<http://www.agri.tohoku.ac.jp/amb/>) と TEAMS の URL (<http://www.i-teams.jp/>) を訪れてみてください。

2011年3月11日に宮城県の沖合で大きな地震が発生して、沿岸には20mを越す巨大な津波が襲った場所もありました。多くの方が犠牲になり、沿岸部の多くの施設も壊滅的な被害を受けました。さらに悪いことには、隣の県の福島県では原子力発電所で事故が発生して、放射性物質の放出が起きました。しかし、沿岸部の施設や産業の復興を目指して多くの方が頑張っています。放射性物質による汚染も最小限に食い止められ、東北大学の仙台では震災前の通常レベルにあります。ご両親が心配して入学を辞退する留学生もいましたが、このような状況で、震災直後に母国に帰国した多くの留学生のほとんどが戻ってきたことや、新入生を迎えることができたことを非常にうれしく思っています。このことは、被災地にある東北大学で勉強と研究をしたいという強い思いがあるからだと思えます。私たち教員・職員はそれに応えなければならないと思います。

このように大学でも復興が進んでいますが、農業・林業・水産業での復興はまだまだです。科学的な立場から、震災後の東北沿岸の海の環境と生態の変化と沿岸の水産業の復興のために技術開発を図るプロジェクトが TEAMS です。今、日本では大学の頭脳の活用が震災復興に強く求められています。農学部でもいろいろな分野で震災復興に取り組んでいます。将来、皆さんの知識と経験が世界各地で起きている災害の復旧と復興に生かされることを期待しています。

留学生紹介

昨年4月・10月に新しく26名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

事項

1. 国籍
2. 在籍課程 (2013年3月現在)
3. 所属分野
4. 研究テーマ
5. 出身校
6. 趣味・特技
7. 自己紹介

Jun Howard

1. インドネシア
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -



5. Penabur International School Tanjung Duren
6. 音楽、食べる事、映画鑑賞、ゲーム
7. 皆さん、こんにちは。インドネシアから来ました、Jun Howardです。はじめまして。私は他の皆さんと同じ様に、生きて、あちこちで友達を作り、食事、音楽、映画鑑賞など、この世にあるすべての事を楽しんでいます。私は話をする事、時々冒険をする事が好きで、多くの事をする中で多くの新しい経験を得ています。私をどこかで見かけたら、遠慮なく話しかけて下さい。

Freeha Khalid

1. パキスタン
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -



5. Punjab College For Women
6. 読書、書く事
7. Freeha Khalidです。パキスタンから来ました。私は常に生物学と科学が好きでしたので、大学での専攻科目が大好きです。私は生物のメカニズムと機能に興味を持っています。私は論理的になることが好きです。また、料理をすることや、読書も好きで、ジャンルでは特にフィクション、推理小説、または恋愛小説が好きです。私はピアノを弾く事が好きです。スポーツではバドミントンとサッカーが好きですが、授業では弓道をしています。弓道も面白いです。私は友達や家族と一緒にいることが好きで、彼らをととても愛し、気にかけています。私は日本の生活を楽しんでいます。人々は非常に親切で助けになってくれます。私は今日本語能力

の向上に努めています。また、私は様々な国の人々と話すことが好きです。宜しくお願ひします。

Chirul Akmal

1. インドネシア
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -



5. MAN Insan Cendekia Serpong
6. 書くこと、ダイビング (まだ出来ません)、水産学、人文科学、語学
7. 故郷から遠く離れたジャカルタ近郊の高校に入学が認められるまで、私はインドネシアの西の端にある故郷のアチエで人生の半分以上を過ごしました。私は人生は冒険でいっぱいだと実感しています。日本で勉強することは私の多くの夢のうちの1つです。東北大学で学ぶ事で、海洋生物学の有名な科学者になる目標を実現したいと思っています。教授、スタッフ、さらに先輩方および友達からの支援で夢がかなう事を信じています。宜しくお願ひします。

Dewi Tri Setyaningrum

1. インドネシア
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -



5. SMAN 10 Malang Sampoerna Academy
6. 読書、旅行、新しいものを知る、または経験する事
7. 到達し維持されるべきものがある場合、人生が意味のある物になります。私の人生にはたった一つのゴールがありますが、それに到達することは手ごわい挑戦です。私は周りの人々の支えなくしてはそのすべてをやり遂げる事はできないでしょう。あなたなしでは私は存在しないのです。あ

林中佳

1. 中国

2. 大学院博士前期課程

3. 食品化学

4. 飽和脂肪酸及びLPS誘発性の慢性炎症に対する食事脂質の影響

5. 上海海洋大学

6. 旅行、料理、絵をかくこと

7. 林中佳と申します。2011年5月から2012年までの一年間、東北大学農学部の特別聴講生として、水産資源化学研究室にお世話になりました。4月からは食品化学研究室にて勉強をしています。東北大学に留学することで、異なる文化を体験し、異なる国の方達との交友を広げたいと思っています。頑張りたいと思いますので、皆さんどうぞよろしくお願ひします。



Cahyo Riyadi

1. インドネシア

2. 大学院博士前期課程

(ヒューマンセキュリティ・プログラム)

3. 国際開発学

4. Developing Community Forest Program to Implement Sustainable Community Based Forest Management

5. ブラウイジャヤ大学

(リンケージプログラム)

6. スポーツ、写真

7. 私の名前は Cahyo Riyadi で、ニックネームは Cahyo です。インドネシア共和国の林野庁で働いています。私はインドネシアのポゴール農業大学林学科卒で、現在はブラウイジャヤ大学行政学部と東北大学大学院農学研究科ヒューマンセキュリティ・プログラム間の博士課程前期課程リンケージプログラムに在籍しております。どうぞ宜しくお願いします。



Tomi Adi Purnomo

1. インドネシア

2. 大学院博士前期課程

(ヒューマンセキュリティ・プログラム)

3. 国際開発学

4. The Implementation of The Slum Settlement Structuring Policy in Malang Municipality, East Java, Indonesia

5. ブラウイジャヤ大学

(リンケージプログラム)

6. テニス、歌う事



7. 私はより高い教育を受ける事によって知識を高める事を強く望んでおり、特に私はインドネシアの政府職員として計画立案、方針決定、政策構想の実行や、社会にて政策実行するにあたり発生する問題解決を職務としている事から、常にヒューマンセキュリティ・プログラムに強い興味を持っておりました。東北大学農学部の国際開発学ヒューマンセキュリティ・プログラムの博士課程前期課程リンケージプログラムにて学ぶ機会を得られる事で、特に多くの部門でも考慮されている地域福祉を実現する方法を学習することができ、自分の能力と知識を強化する機会になるだろうと確信しています。私の研究は、インドネシアで社会開発計画を扱うことにおいて私の能力を強化するであろう、都市社会問題に対処する学際的な展望に重点を置いていますが、この研究課題を支援するための知識を私に提供して頂けるものと思っています。

Belly Sultrawijaya

1. インドネシア

2. 大学院博士前期課程

(ヒューマンセキュリティ・プログラム)

3. 国際開発学

4. Public Satisfaction Towards Land Titling Project For Agricultural Sector

5. ブラウイジャヤ大学

(リンケージプログラム)

6. 旅行、歌う事

7. 私はインドネシア南スラウエシのマカッサル出身です。現在ヒューマンセキュリティ国際教育プログラム大学院博士前期課程農業科学専攻に在籍しております。インドネシアの国土庁に勤務しています。日本、特に東北大学で勉強すること、私は私にとっては夢がかなったのも同然です。どうぞ宜しくお願いします。



Heldi Yunan Ardian

1. インドネシア

2. 大学院博士前期課程

(ヒューマンセキュリティ・プログラム)

3. 農業経営経済学

4. The Evaluation of Japan's Grant Aid for Agriculture Development in Indonesia

5. ブラウイジャヤ大学

(リンケージプログラム)

6. 歌う事、料理



7. 皆さん、こんにちは。インドネシアから来ました、Heldi と申します。2012年10月1日に仙台に来たばかりで、これが初めての海外生活経験で、人生初の雪に触れる経験にもなりました。大学院農学研究科の学生です。私は母国では農業省に勤務している為、ここでの私の研究テーマは“Japan’s Grant Aid for Agriculture Development in Indonesia”です。私は歌う事、料理をする事が好きですので、いつか一緒にカラオケに行き、食事を楽しみましょう。私は日本語を学習し、日本の多くの美しい場所のことをより深く知りたいです。

ちえん しゃん にん
陳 香 凝

1. 中国
2. 大学院博士後期課程
3. 細胞生物学研究室
4. Effect of Plasma factors on adipogenic differentiation of Bovine Intramuscular Preadipocytes
5. 揚州大学
6. 映画鑑賞、卓球、旅行
7. 皆さん、初めまして。私は中国の揚州大学から来た、陳香凝です。博士課程後期課程の一年生です。東北大学で勉強する機会を与えて頂いた事をとても名誉に思っています。私は一年間の交換留学の経験により、仙台での生活にも慣れました。今私は日本語の修得と実験に最善を尽くしているところです。もっと日本について知り、仙台での生活を楽しみたいと思います。



そう よー
宋 勇

1. 中国
2. 学部研究生
3. 作物研究室
4. -
5. 聊城大学
6. 卓球、音楽
7. 私は昨年4月に中国から来ました。2007年に山東省にある聊城大学を卒業しました。在学中は生物科学を専攻しました。私は作物学や作物栽培にとても興味を持っています。今は作物研究室の研究生です。将来は作物学の教育、及びその研究をしたいと思っています。



きん きん
金 鑫

1. 中国
2. 学部研究生
3. 農業経営経済学研究室
4. 日本企業による中国農業への投資の評価と今後の課題
5. 浙江師範大学
6. 書道、水泳、卓球、料理
7. 浙江省寧波市の出身の私は、性格が明るく、人との付き合いが好きです。負けん気が強く、好奇心が旺盛で、新しい事に挑戦する事が好きです。昨年の10月に日本に来たばかりですが、周りの皆さんのおかげで順調に生活をし、しっかりと勉強をする事が出来ています。今は研究生として今年4月に院生になることを目指して頑張っています。どうぞ宜しくお願いします。



ぼん しょう
彭 昭

1. 中国
2. 学部研究生
3. 応用微生物学
4. 植物の抗菌活性を検出
5. 天津科技大学
6. 旅行、音楽鑑賞
7. 天津から来た彭昭と申します。2011年に中国天津科技大学を卒業した後に来日し、東京の日本語学校で日本語を一年ぐらゐ勉強しました。仙台の冬は天津より暖かいので、仙台での生活にはすぐに慣れました。私は美味しい店を探すことが大好きで、今いろいろな店を探しています。



もはめど あろうでいん
Md. Alauddin

1. バングラディッシュ
2. 大学院研究生
3. 栄養学研究室
4. Effect of rice bran components on the improvement of hypertension in SHRSP rats
5. ダッカ大学
6. 読書、卓球、旅行
7. 私は Md. Alauddin です。バングラディッシュのダッカ大学を卒業しました。5年間バングラディッシュの製薬会社で経験をつみました。今は東北大学大学院農学研究科の栄養学研究室で大学院研究生として在籍し、博士号の取得を目指しています。



か らい 磊

1. 中国

2. 大学院研究生

3. フィールド社会技術学

4. 中国の農超对接における

農業合作社の展開分析

5. ポーツマス大学

6. 読書、旅行、運動

7. こんにちは。私は栗磊と申します。昨年10月に仙台に参りました。今年博士課程に進学する予定です。様々なことを研究して、人々とその成果を分かち合うことが私の夢です。私は色々な人とコミュニケーションをとるのが大好きです。また、互いの考えや意見を交換することも大事だと思います。新しい言語を勉強し、異文化を体験することも好きです。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



Sitei Nurjanah

1. インドネシア

2. 特別聴講学生

3. 動物栄養生化学

4. Effect supplementation antioxidant

on heat stressed broiler chickens

5. ボゴール農業大学

6. 歌う事、映画鑑賞

7. インドネシアでもっとも“ファッショナブル”な都市、バンドンで1991年7月11日に生まれました。私は日本の料理、テレビドラマ、アニメ、歌など、様々な物が好きです。半年という短い期間ではありますが、私は仙台に住む事に本当に楽しんでます。日本人はとても友好的で、私は“別の家族”を研究室で見つける事ができました。大学院でまたここに戻ってきたいです。



りゅう しん 静

1. 中国

2. 特別聴講学生

3. 水産資源化学

4. フコイダンの抗アレルギー活性

5. 上海海洋大学

6. 絵を描く事、音楽鑑賞、映画鑑賞、推理小説を読む事

7. 私の基本的な情報はすべて上記にある通りですが、付け加えて頂ければ、私は外向的な性格で、友達を作る事が好きです。一年間の滞在ですが、私は仙台の清潔で美しい環境、友好的な人々、および学習環境が好きです。ここで勉強し、かつ異なる国の人々と知り合う事は良い機会だと思います。



Samuli Tapio KOIVU

1. フィンランド

2. 特別聴講学生

3. 機能分子解析学

4. Cancer

5. アールト大学

6. ゲーム、アニメ、パーティー

7. 私の名前はさむり こいづです。フィンランドにあるアールト大学から来た23歳の学生です。日本には東北大学のJYPE (Junior Year Program in English) プログラムで1年間の滞在予定です。フィンランドの大学では化学工学科で生化学と生物科学を専攻しています。さらに工業経営を副専攻とし、また日本語も3年間勉強しています。東北大学で分子機能解析学研究室におります。



わん りゅう 柳

1. 中国

2. 特別聴講学生

3. 生物海洋学

4. 震災後女川湾海水のパラメーター変化

5. 上海海洋大学

6. 卓球、映画

7. 皆さん、こんにちは。王柳と申します。上海海洋大学からの交流留学生です。今は農学部生物海洋学研究室にて勉強をしています。趣味は映画鑑賞と音楽鑑賞です。スポーツも大好きで、特に卓球とバドミントンが好きです。日本の生活にも段々と慣れ、日本料理も好きになりました。仙台は私の故郷よりずっと寒いですが、雪が綺麗です。これからもよろしくお願ひ致します。



Dyah Savitri Pritadrajati

1. インドネシア

2. 特別聴講学生

3. 国際開発学

4. Development of Crop Insurance

5. ガジャマダ大学

6. 旅行、新しい文化を取り入れる事

7. 私は IPLA プログラムの交換留学生です。学部3年生として、私は国際的な国を越えた友情により、人脈を開発し広げることに興味を持っています。旅行は私が情熱を傾ける物の1つになったので、私は新しいものを見て試す事の出来る新しい場所へ行く事をいつも強く望んでいます。



あじざ とりすな じゃやんてい
Azizah Trisna Jayanti

1. インドネシア

2. 特別聴講学生

3. 農業経営経済学

4. -

5. ボゴール農業大学

6. 歌う事、水泳

7. 私はボゴール農業大学でコミュニケーションと地域開発を専攻しています。私は東北大学農学部 IPLA 交換留学プログラムに参加しています。私は農村社会学、農村地帯の地域開発にとっても興味を持っています。日本で農村社会学を学ぼうと思った事にはいくつか理由があります。皆さん



もご存じのように、日本の農業はより生産的であるために比較的狭い農地をうまく利用しています。また、日本の各地域は都市と農村間の経済不均衡をあまり拡大しないで地域経済の発展を成し遂げました。さらに、生産性を向上させることで人々の需要を満たすことができます。これらの事が私に日本で農村社会学を勉強する事への興味を感じさせました。私は農村社会学の知識を深めたいです。日本で勉強する機会を与えられれば、私は日本での農村社会学の現状を知る事ができ、そこでインドネシアと日本での現状がどの様に違うのかを比べることが出来るでしょう。その後、それが利用可能な場合、インドネシアを発展させるためにそれを取り入れる事が出来ます。

平成24年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

中国海洋大学 (中国)

生物海洋学分野 准教授 大越和加

2012年6月20日より26日までの7日間、青島市にある中国海洋大学の李景玉先生にお世話になり、遼東半島周辺海域の増殖種・天然有用貝類の貝殻に穿孔する多毛類の調査を行った。貝類の貝殻に穿孔する多毛類は、現在、世界中の貝類、主に陸上養殖施設において養殖されている貝類に、商品価値の低下、成長阻害等の被害をもたらすことが報告されており問題になっている。外来生物の非意図的移入という観点からも、生物多様性を減ずる主要因の一つとして問題視されている。中国での穿孔性多毛類については見聞がなく、今回初めて調査を行った。レンタカーを借り、栄成市の昆布漁場と白鳥湖において養殖ホタテガイ、アカザラガイ、マガ



李景玉先生と海洋大学にて



栄成市昆布漁場でのマガキの調査

キ、青島市の天然と増殖アワビ、アカザラガイについて現地の水産関係者のみなさんにお世話になり調査を行うことができた。海洋大学に戻り、多毛類を摘出し調べた結果、穿孔種はスピオ科の *Polydora onagawaensis* と *P. brevipalpa* であることが分かった。両種とも、中国はつきろくしゅである。とくにアワビの貝殻への侵蝕状況は悪く、影響が懸念された。*Polydora onagawaensis* は、日本、宮城県より新種として記載されたばかりの種であり、広くアジア東部に生息している可能性が推察された。調査の結果を踏まえて、中国海洋大学にて、「アジアの穿孔性

多毛類の侵蝕状況」と題して講演を行った。学生を中心に、積極的に質問が多く出た。今後も、共同で調査を続け、中国沿岸域の有貝類に影響を与える多毛類について解明していく予定である。李先生をはじめ、当研究室のスタッフと学生の皆様の多大なるご協力に心より感謝申し上げます。



李景玉先生、李其先生、Gong先生らと共に

■ 揚州大学動物科学技術学院 (中国) との交流 ■

応用生命科学専攻 教授 麻 生 久



学生交流セミナー

揚州大学動物科学技術学院と東北大学農学研究科は、2004年12月に部局間学術交流協定を締結し、職員・大学院生の学術交流を継続的に活発に実施した。この成果が認められ、2008年6月には大学間交流協定締結に発展した。大学間交流協定に基づき、大学院生の相互交流のため、揚州大学から大学院生の短期留学を毎年受け入れて、学生を対象とした動物科学に対する研究会、情報交換、見学などを行っている。

今年度は、侯玉洁 (Hou Yujie) さん周美玲 (Zhou Mei Ling) さんと 刘苏娇 (Liu Sujiao) さんが、2012年10月21日から11月7日まで18日間の東北大学農学研究科応用動物学系への訪問となった。彼女たちは揚州大学動物科学技術院に所属して、動物飼養学、動物繁殖学、動物育種学を専攻している。分野訪問の際は研究内容の説明を受け、それぞれの観点から積極的に質問し、所属



齋藤忠夫教授と本部前集合写真

がくせい した こうりゅう
学生と親しく交流をしました。

こうりゅうじぎょう ひと だいがくいんせい しゅたい きかく うんえい おこな こうりゅう
交流事業の一つに、大学院生が主体となって企画・運営を行う「交流セミナー」があり、それぞれの研究内容を
はつびょう あ こうりゅう ふか しゅうりょうご さつえい しやしん み がくせいかんこうりゅう み
発表し合い、交流を深めています。終了後に撮影した写真を見ていただければ、学生間交流が実のあるものとなって
いることが、お判りいただけることと思います。

ほんこうりゅうじぎょう じっし とうほくだいがくだいがくいんのうがくけんきゅうかこくさいこうりゅういんかい こくさいこうりゅう もくてき たんきしゅうへいりゅうがくせい
本交流事業を実施できたのは、東北大学大学院農学研究科国際交流委員会「国際交流を目的とした短期招聘留学生
事業にかかる経費」に申請し、滞在経費が認められたお陰であり、改めて感謝いたします。また、応用動物学系職員
がくせい みなさま とく ちゅうしんてき はたら おようどうぶつがくけいりんちょうさいとうただおきょうじゆ きょうりよく かんしや
と学生の皆様、そして特に中心的に働いていただいた応用動物学系委員長齋藤忠夫教授の協力に感謝いたします。

■ ボゴール農科大学・ブラウイジャヤ大学等 (インドネシア) ■

こくさいかいはつがくぶん や きょうじゆ よね くら ひとし
国際開発学分野 教授 米 倉 等



ジャムハリ講師（後列右から5人目）を囲んで
ヒューマンセキュリティ・プログラム国際セミナー「貧困と食糧安全保障」

ヒューマンセキュリティ・プログラム授業の一環で毎年行っている国際セミナーに、昨年11月、大学間協定校ガ
ジャマダ大学のジャムハリ准教授を招いて「貧困と食糧安全保障」について講演をしてもらい、様々な角度から活発
な質疑を行った。ジャムハリ准教授は、本学の資源政策学分野（現、国際開発学分野）の修了生で、2005年に博士
の学位を取得して帰国、現在39歳でインドネシアの主要大学の中で最も若い農学部長を務めている。また、社会・

じんぶんががくたんきりゅうがくせいりゅうけい いっかん
人文科学短期留学生受入れプログラム（IPLA）の一環で、
だいがくなら おな きょうていこう のうか
ガジャマタ大学並びに同じく協定校であるボゴール農科
だいがく がくぶせい おのおの めい がつ ねんかん よてい
大学から学部生を各々1名ずつ、10月から1年間の予定
う い こくさいかいはつがくぶんや ほくしこうき
で受け入れている。さらに、国際開発学分野の博士後期
かてい がくせい り のうかだいがく けいざいけいらいがく がく
課程の学生2人が、ボゴール農科大学・経済経営学部
りゅうがくせい ねんかんたいざい どうがく せんせい
留学生などとして1年間滞在している。同学の先生の
しどう う のうそんちいき ちようさ おこな
指導を受けながら、農村地域でフィールド調査を行って
いるほか、日本語授業を担当するなど交流を深めている。

さらに、ヒューマンセキュリティ・プログラムが行うリ
ンケージ・プログラムでは、国立ブラウイジャヤ大学
ざい し がつ てんにゅうがく にん いんせい ぜんき
（在マラン市）から10月より転入学で4人の院生を前期
かてい ねんじ う い うけいれにきだつ7月か
課程2年次に受け入れている。受け入れに先立つ7月か
がつ ねんちひがし しゅう けん のうそん にん
ら8月にかけて、現地東ジャワ州マラン県の農村で4人
えんしゅう か のうかちようさ じっし きょうりよく けんきゅう
の演習を兼ねた農家調査を実施するなど、教育と研究を
か じっしつてき こうりゅう そくしん
兼ねた実質的な交流が促進できた。



マラン県の農村におけるインタビュー調査の様子

しゃんはいかいようだいがく ちゅうごく
上海海洋大学 (中国)

すいさん しげん か がくぶん や きょうじゆ さ とう みのる
 水産資源化学分野 教授 佐藤 実

2012年度は学生および教職員間での交流が盛んに行われた。4月4日に学部特別聴講生として、上海海洋大学食品工程学院3年生劉申静君と生命科学学院王柳君が仙台に到着した。所定の手続きを終えて、それぞれ海洋生物科学系の水産資源化学研究室および生物海洋学研究室に席をおき、早速、学生実験、学部授業の受講を開始しました。9月になると、東北大学大学院農学研究科修士1年生松前成輝君が本格的な長期留学生として、上海海洋大学に旅立った。これまでも短期留学生はいたが、長期留学生は初めてのケースであり、上海海洋大学の窓口をお願いしている奚印慈先生と連絡を取り合いながら、指導にあたることにした。上海海洋大学の1学期では日本語、中国語の歴史などを学んでおり、2学期は中国人向けの講義を受講することになっている。帰国する頃には日常会話はもちろんのこと、中国での生活に不自由しないレベルまで上達していることを期待したい。

2012年は上海海洋大学創立100周年にあたる。前年の浙江省水産講習所、上海水産大学を経ての100周年になり、2012年12月15日に創立100周年記念式典が挙行され、本学から木島総長特別補佐が、加えて、国際交流課にかいどうかりちようのうがくけんきゆうか ころりゆうまどぐちさとうあきさうじゆ まね二階堂係長と農学研究科の交流窓口佐藤実教授が招かれた。式典は大学の野外運動場で盛大に執り行なわれたが、さまざまな学生によるアトラクション、中央政府要人はじめ上海市政府、近隣関係省政府関係者による祝辞、深夜まで続く花火などなど、少し前に行われた東北大学創立百周年とは規模も時間も異なる式典に我々も酔いしれた。東北大学と上海海洋大学との交流は農学部との部局間交流からスタートし、大学間交流に格上げさて、丸11年を迎えた。

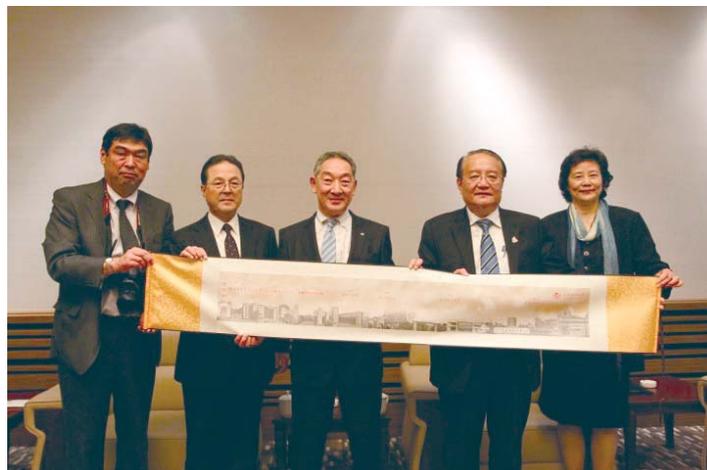
平成25年度には新たな交換留学生として 赵飞(Zhaofei)君と 童佳丽(Tong jiali)君が東北大学を訪れることになっている。両校の交流が今後も続くことを祈念し筆を擱く。



そりつ しゅうねん きねんしきてんかいじょう ようす
 創立100周年記念式典会場の様子



がくせい しゅうねん きねん
 学生による100周年記念アトラクション



ほんがくちやう しーせんせい にほんがわほうもんだん
 潘学長、奚先生と日本側訪問団

■ ロシア科学アカデミーシベリア支部 (ロシア) ■

えんげいがくけんきゅうしつ じゅんきょうじゅ かな やま よし のり
園芸学研究室 准教授 金山喜則

2011年12月に、協定先であるロシア科学アカデミーシベリア支部の細胞遺伝学研究所より Kochetov 博士らを招聘した際に行った打合せに基づいて、今年度、次の研究交流を行った。まず、平成 24-25 年度に実施の科学研究費補助金事業“果実における新規機能性成分グルコース誘導体の解析”に連携研究者として参加してもらい、共同研究を開始した。同研究内容と関連して、園芸学分野における国際学術誌である Journal of Horticultural Science & Biotechnology において論文“Research progress on the medicinal and nutritional properties of sea buckthorn (*Hippophae rhamnoides*)”を共同発表した。昨年9月にはさらに、日本学術振興会の二国間国際共同研究に“RNA 構造と植物ストレス耐性の分子機構”を共同出願した。また、生物学的ストレス耐性作物の開発を目的として、Kochetov 博士らが作成した RNase はつげんしよくが つ さくねん が つ どうほくだいがく き の う ひょう か さぎょう おこな 発見植物を、昨年7月から東北大学にて機能評価する作業を行っている。

■ 济州大学校農業生命科学部 (韓国) ■

のうがくけんきゅうか きょうじゅ か どう かず お
農学研究科 教授 加藤和雄

济州大学校農学部 (現農業生命科学部) と東北大学の農学部との学術交流に関して前任者から引き継ぎの依頼があり、2012年9月20日から23日まで济州大学校農業生命科学部を訪問してきた。济州大学校側の世話人は康珉秀 (Kang Min-Soo) 教授であり、彼の研究対象としての济州馬の放牧風景や畜産試験場に現存する黒毛の韓牛などを丁寧に見せて頂いた。この黒毛の韓牛は、山口県の見島牛との関連性が深いとの興味ある説を伺った。また、大学訪問時には、学部長および総長にお会いし、表敬の挨拶をすることが出来た。

济州大学校農学部と本学部との学術交流が締結されたのは1984年とされているが、残念ながら協定書の正本は見あたらない。教授会の資料を見たかぎりでは、内容は極めてシンプルなものであり、学生や職員の実際交流に関する具体的な内容は含まれていない。したがって、近い将来には単位互換や授業料、旅費や滞在費などに関する具体的な内容を考慮した協定書の作成が必要となる。うれしいことに、本学部との学術交流に興味を持っている大学が韓国内には複数あることから、どのような形態が望ましいか、これからの課題である。



ちえじゅ ぼ ほうほくふうけい
济州馬の放牧風景



ちくさん し けんじょう げんぞん くるげ かんぎゅう
畜産試験場に現存する黒毛の韓牛

だいがくじっけん い がく ぶ
ラキユラ大学実験医学部 (イタリア)

どうぶつせいしよく か がくぶん や じゅんきょうじゆ たね むら けん たろう
 動物生殖科学分野 准教授 種 村 健太郎

2012年4月から6月にかけて、ラキユラ大学の Elena Di Marco さんが動物生殖学研究室に滞在し、「卵巣卵胞成熟と細胞外マトリックス」の研究を行いました。Elena さんの来日時は、日本が大荒れの天気で、飛行機の到着が遅れた為、移動の途中、関東にて一泊してから仙台到着というスリリングなスタートから始まりました。しかしながら Elena さんはイタリア人らしい社交的な性格と、積極的な向学心で、すぐに研究室のメンバーと親しみ、特に大学院生の白形芳樹さんを中心に研究遂行の協力が体制が築かれ、順調に研究成果をあげて帰国しました。



Elena さん (前列右)、佐藤英明教授 (Elena さん隣)、白形くん (後列左)、著者 (後列右)



研究室のメンバーとのドライブ旅行にて

どうぶつせいしよく か がくぶん や ぜん きはくし かてい しら がた よし き
 動物生殖科学分野 前期博士課程 白形 芳樹

Elena さんは、うどんや焼きそばにチャレンジし、日本の食べ物は大変おいしいと喜んでいました。しかし、さすがにピザは本場の方がおいしいということで、ぜひ本場で紹介してもらいたいと思います。仙台を去る前の最後の休日には、研究室のメンバーと共にドライブ旅行に行きました。ニッカウイスキー工場見学では、アップルワインをととても気に入ったとのことでした。Elena さんは日本伝統様式の温泉にも挑戦し、女性メンバーから聞くところによると、驚きつつも大変喜んでいたそうです。今年の六月頃に今度は夫婦で再び仙台を訪れたいということです。

たいわんたいぺい い がくだいがく こうしゅうえいせいえいようがくいん たいわん
台湾台北医学大学公衆衛生栄養学院 (台湾)

えいようがくぶん や きょうじゆ こま い みち お
 栄養学分野 教授 駒 井 三千夫

1) 受入および医学研究科への橋渡し
 6月25日(月): 台北医大からの訪問:
 台北医学大学の医学部副学部長の Prof. Nen-Chung Chang, 公衆衛生・栄養学部学院学科長の Prof. Jiun-Rong Chen, 看護学部の Assis. Prof. Yu-Ling Hsiao, および国際交流事務長の Ms. Stephanie Liao が来所された。農学研究科では、研究科長不在のため、國分教授、尾定教授、池田教授、事務長に対応していただいた。当研究科では、最近の交流実態についての意見交換等が行われた。今回の彼らの訪問の主な目的は、医学研究科との交流を進めるといったことだったので、駒井が医学研究科訪問をアシストした。医学研究科では、腎臓・高血圧・内分泌の



もりたけふみゆきおとうじゆ ふぞくじたいん
 森建史准教授と附属病院にて

もりたけふみじゆんきょうじゆ いきよくちゆう ふぞくびやういん あんないいただ
 森建史准教授（医局長）に附属病院をご案内頂いたり、
 いがくきょういくすいしん かねづかきょうじゆ かめおかじゆんきょうじゆ いがく
 医学教育推進センターの金塚教授・亀岡准教授との医学
 きょういく かん じょうほうこうかん いただ じゆんかんきんないか
 教育に関する情報交換をして頂いたり、循環器内科の
 きもかわきょうじゆ ふくだじゆんきょうじゆ きょうどうけんきょう かいうせい
 下川教授・福田准教授らと共同研究の可能性についての
 いけんこうかん
 意見交換がなされた。

2) 訪問（駒井教授）：

8月6日～10日の間に駒井が訪問した。まず、台北医
 大出身の黄啟彰准教授（Dr. Chi-Chang Huang）の招待で
 こくりつたいわんたいいくだいがく こうえん おこな だいがくいんがくせい たい
 国立台湾体育大学での講演を行った。大学院学生に対し
 て、ビタミンKと腸内細菌叢の話題と、ビタミンKのテ
 ストステロン生成亢進作用について講義した。同じ
 題材で、別な日に国立実験動物研究センターと、台北
 医大・公衆衛生栄養学院にて各々講演を行った。黄准
 教授（Dr. Huang）らとお互いのチームによる新しい共同
 研究について意見交換ができ、今後の研究に資するところ
 大となった。新しいプロテオーム解析等の協同研究の
 推進が期待される。

3) 大学院学生の短期留学受け入れ：

8月23日～9月23日の1ヶ月、台北医大・公衆衛生栄養
 学院の修士課程学生1年次の2名を受け入れた。賴靖涵さん
 (Ms. Lai Ching Han) と高寧均 (Ms. Kao Ning Chun) のお
 二人である。高血圧ラットの血圧測定とショウジョウバ
 エの味覚に関する研究手法やラット脳のスライス研究法
 の見学、PCR実験のトレーニング等を行った。帰国後の
 彼女らの研究に役立つ1ヶ月間だったと思われた。



台北医大にて



台北医大と親交のある(財)がん集学的治療研究財団
 事務局長古田榮敬先生入室

し せつけんがく じっし
施設見学の実施

12月15日、農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象に、大崎市にある一の蔵の酒蔵と、登米市にある宮城
 の明治村を見学しました。以下は参加者の感想です。

どうぶついでんいくしゆがく
 動物遺伝育種学
紅玉

時間が過ぎるのは本当に速いですね。日本に留学してもう3年目が終わり、4年目を向かえています。学校での
 研究と勉強がとて忙しく、日本の歴史や文化などを学びたいのですが、時間があまりありません。

農学部・農学研究科では毎年留学生に対して、日本の歴史と文化などを経験できる施設見学を行っています。私は
 今回で3回目の参加になります。今回は一の蔵の酒蔵とみやぎの明治村を見学しました。いろいろな国から来た留
 学生と交流ができて本当に楽しかったです。

日本酒の作り方では温度の設定がすごく難しく、4度で酵母が働くのは不思議に感じられました。一番寒い時に
 一番美味しいお酒が作られることが初めて分かりました。最後に留学生の皆さんと、一の蔵から用意してもらった、
 日本酒を試飲したのが一番面白く、楽しかったです。学部生の一人が未成年で、まだお酒を飲む年齢になってないか

らと、どう誘っても飲まなかったのは可愛かったです。

その後、みやぎの明治村に向かいました。明治村に着いてから、皆グループに分かれて、地図を見ながら雪の中、明治村を見学しました。私たちは最初に学校に行きました。学校では、前に使っていた物が展示して在り、その中に、教科書、地図、お金、日本の遊び道具のケン玉等の文化と歴史に関する物を見学でき、勉強になりました。その後、博物館、県庁等を次々に見学して、留学生の皆さんと交流もできて本当に楽しい旅でした。

これからもいろいろな所を見学できればいいなと思っています。次の旅行も皆さんと一緒に行ければと、楽しみに待っております。



いち くら さけつく せつめい きんかしゃ
一の蔵にて酒造りの説明をきく参加者



めいじむら かんこうぶっしん
“みやぎの明治村” とよま観光物産センターにて

こくさいかいほつがく
国際開発学

ぶらそじよ ばゆ すうおんど ぶとろ
PRASOJO BAYU SUWONDO PUTRO

わたし ばゆ です。東北大学の外国人学生として、私たちの活動のうちの1つを共有させて頂きたいとおもいます。外国人学生として日本に住む私たちは、興味深い文化と景観で有名な日本に関して学習する機会と利点をより多く持っている事は明らかです。

毎年、農学部と大学院農学研究科は私たち留学生を施設見学に招待して下さいます。施設見学の主な目的は、外国人学生にお互いを知り合う機会を与えるだけでなく、日本に関する私たちの知識を増やす事にもあります。国際交流委員会は今年の施設見学を伝統的な日本の酒蔵見学と宮城の明治村を訪れることに決定しました。

限られた短い時間ではありましたが、私たちにとってこの旅行はとてもよい時間になりました。このような方法で古い日本の文化のことを深く知るのには興味深い事です。最近グローバル化の広がりにより全世界が“カルチャーショック”に直面するなかで、日本の文化を勉強し知るのには、最も興味深い事のうちの1つです。また、グローバル化の波が生活様式に押し寄せてもなお、日本の文化は人々によってしっかりと維持されている事が証明されています。外国人学生は、この事に関してもっと学ぶべきです。従って、私たちはこの経験を故国へ持って帰ることができるでしょう。